

令和2年度使用中学校用教科用図書採択理由書（調査研究の観点別）

宮崎大学教育学部附属中学校

- 教科用図書 (特別の教科 道徳)
- 発行者名 (日本文教出版)
- 教科書名 [シリーズ] (あすを生きる)

<p>(観点1) 道徳の目標の達成及び単元(題材)の構成・配列等</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 構成については、教材として学校、家庭、社会などの幅広い分野に関わる題材を採用するとともに、教材で示される主題などをより多面的・多角的に考えることができるように、関係する教材の前後に教材外のコラムを取り入れるなど、道徳性を身に付けることができるような工夫が見られる。 ○ 配列については、生徒の発達の段階や、他の教育活動などとの関連を踏まえ、「いじめ」や「安全」などのテーマを設定して教材を配列することにより、学ぶ「必然性」をもたせることで、道徳科のねらいに迫る工夫がなされている。
<p>(観点2) 道徳性を養う指導を行うための内容の充実</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報モラルについて、著作権などをマンガ形式で取り上げ、権利や法律の意義について考える教材を掲載するなど、節度ある情報活用力の育成に向け、自立心や規制などの内容を取り上げ、工夫をしている。 ○ いじめ問題について、いじめ防止のユニットを構成する教材とコラムは、生徒が自分たちの問題として多面的・多角的にいじめについて考えられるものを選定し、発達段階を考慮に入れて配置するなど、工夫が見られる。 ○ 道徳の学びを広げ、深めるために、教材と関連した内容や活動を扱ったコラムを適宜掲載してある。また、道徳科以外の教育活動とも関連付けて使用できるように、各教科や各地域と関連した内容を扱うなど、工夫が見られる。 ○ 豊かな対話が生まれるように、「気付く」「考え、議論する、深める」「見つめる、生かす」の3つのステップを設定し、主題名と登場人物、発問例を掲載し、それぞれのステップで活用できるように配慮するなど、工夫が見られる。
<p>(観点3) 利便性の向上</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の教科書には別冊の「道徳ノート」を添付し、メモや図表などを自由に書き込めるようにしたり、授業の展開に応じて記入欄を部分的に使えるようにしたり、自分の学習状況や考え方の変化・成長を実感できるようにするなど、工夫が見られる。 ○ 問題解決的な学習、体験的な学習の手法に適した教材には、生徒の学びと教師の指導の参考例となるよう「学習の進め方」を設けている。また、「道徳ノート」を併用することで言語活動を充実できるようにするなど、工夫が見られる。
<p>(観点4) 地域の教育の特色や生徒の実態等</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の教育の特色については、生徒にとって身近に感じられるような地域の特色を生かした地域教材の活用、開発に配慮し、全国各地の素材を教材・コラム化するなど、工夫が見られる。 ○ 生徒の実態等については、生徒の発達段階に合わせて教材を選定することで、小学校から中学校、高等学校それぞれの時期をつなぎ、系統的・発展的に学習できるようにするなど、工夫が見られる。